

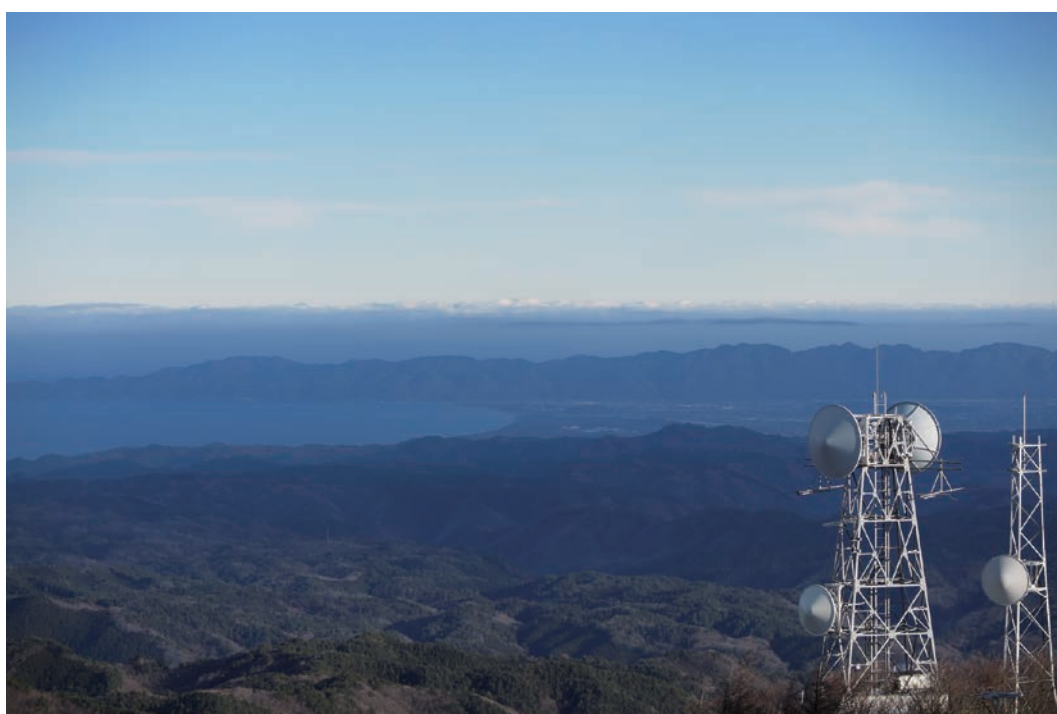
Sanbe Field Museum News

さんべ発!

No.182

2024年1月号

島根県立三瓶自然館 ニュースレター



海の向こうに

冬の朝、女三瓶山の空気は凜と冷たく澄んでいました。朝日に照らされていつもより近く感じる大山の勇姿にしばし見惚れてから北を見やると、日御碕から続く島根半島の山並みの先に陸地が見えます。隠岐諸島です。

最も近い知夫里島まで三瓶山からおよそ100kmの距離があり、普段は晴れていても島影がぼんやりとかすんで見えるのが精一杯ですが、今朝は島前と島後の区別ができるくらいははっきり見えています。

三瓶山と島根半島、隠岐は風土記が伝える国引き神話の舞台です。新羅の国から引いてきた日御碕のほか、隠岐の島前、島後から2つ、北陸の越の国から1つの国を引き寄せて三瓶山と大山を杭にして留めたという物語。最近の研究によると、神話の物語は海を隔てた交易と関わりがあると考えられてきています。

冬晴れの天気が見せてくれた神話の舞台。遠い地域を一瞬でつないでくれる電波塔もまた、横からの朝日に照らされていました。

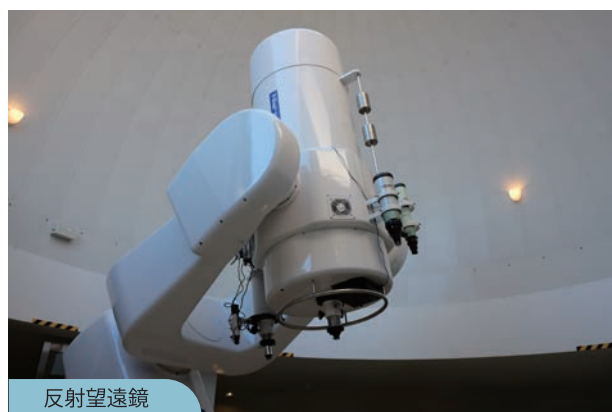
01 サヒメルの天文台紹介

男三瓶山を背に建つ三瓶自然館を見上げると、そのてっぺんに茶色いドームがあることに気がきます。大きな望遠鏡がある天文台です。三瓶自然館では実際に望遠鏡で天体が見られる観察会を開催しており、特にキャンプシーズンなどはたくさんの人で賑わいます。美しい三瓶の星空に迫る天文台について少しご紹介しましょう。

外から目を引くのはなんとといっても茶色いドームですが、この横にももう一つの天文台があります。外観は体育館のような格好、でもこれはスライディングルーフ観察室といって、なんと12m四方の大きな屋根がスライドして開閉する、天文施設としては日本有数の大きさを誇る建物なのです。床はじゅうたんが敷いてあるので、座ったり寝転がったりと、思い思いの星の楽しみ方ができます。寝ながら流れ星探しなんて、最高ですね。



天文台全景



反射望遠鏡

ドームに備えられているのは、直径が60cmの鏡を使った反射望遠鏡です。島根県では津和野町の日原天文台に75cmの望遠鏡があり、県内では2番目の規模の望遠鏡といえます。遠くの天体の光は暗くかすかなので、たくさん集めなければ見ることはできません。そのため、望遠鏡は光を集めるレンズや鏡が大きいほど基本的に性能は上がっていきます。60cmの望遠鏡は肉眼の7,000倍以上の光を集めることができ、1,000万光年以上離れた銀河の姿も観察することができるのです。

寝ながら星が見られるスライディングルーフ観察室には、20cmのレンズを使った屈折望遠鏡が4台あります。屈折望遠鏡は小型の望遠鏡に多く使われている形式ですが、少し異なるのはクーデ式というタイプであること。鏡で光を曲げることで、空のどの方向を見ても観察する位置が変わらないという特徴があります。背の低い子供や車椅子に乗ったままでも観察ができるすぐれた望遠鏡です。ちなみにクーデとはフランス語で肘(coude)という意味だそうですよ。



クーデ式望遠鏡



電視観望

○天体観察会(個人向け・団体向け)は予約制で実施中、このほか昼間には太陽観察を行う日もあります。

三瓶自然館の天体観察会では、これらの望遠鏡を覗いてその時期や季節に見られる月や惑星、星雲や星団などを観察することができます。また、近年は高感度のカメラを望遠鏡に取り付け、リアルタイムで大型モニターに映す「電視観望」という手法も増えてきました。肉眼ではわかりにくい細かな構造を確かめたり、たくさんの人と一緒に感動を共有できたりと、これからもっと活用されていくことでしょう。街明かりの届かない美しい三瓶の星空。星降る夜が皆さんをお待ちしています。

(学芸課 太田哲朗)

02 小さい満月と大きい満月

月は地球の周りをまわる衛星で、約29.5日の周期で満ち欠けを繰り返します。ただ、その軌道は完全な円ではなく少し歪んでいます。そのため、地球と月の距離は、遠い時(約40万キロ)と近い時(約36万キロ)があります。つまり、同じ月であっても、見かけの大きさは遠い時には少し小さく、近い時には少し大きくなっています。その違いは、直径では1割くらい、明るさは3割くらいの違いになります。

2024年のなかで、2月24日は地球に最も遠い位置で満月を迎えます。逆に、地球から最も近い満月は10月17日の満月です。最近では、地球との距離が近い時の見かけの大きさの大きな満月を「スーパームーン」と呼んだりしています。ただ、実際の夜空に月を二つ並べて比較することはできないため、夜空の月を眺めただけでは大きさの違いは分かりにくいかもしれません。写真に撮影したりして、比べてみてください。

月は、夜空で最も目立つ天体で、三瓶自然館の天体観察会でも人気の天体の一つです。夜だけでなく、昼の空でも月は白く見えていることがあります。特に、2024年5月5日の12時ごろには、細い月が火星を隠す「火星食」が見られます。また2024年9月17日に「中秋の名月」、10月15日に「後の月」(十三夜)を迎えます。ぜひ、いろいろな時に月を見上げてみてください。

(学芸課 矢田猛士)



遠い時の月(左、2010年8月25日)と近い時の月(右、2012年6月3日)
三瓶自然館の15cm屈折望遠鏡で撮影。

2月-3月のイベント

 さんべの森たんけんたい 冬の森であそぼう	2/4 日 10:00~13:00	あつたかたき火で焼きいもを作りましょう! 雪があれば雪遊びも!	定員:親子8組 料金:大人300円 小学生以下100円	要予約 対象:幼児~小学校 低学年を含む家族
 月イチガク① くにびきの山が つなぐ海の道	2/10 土 14:00~15:30	国引き神話の舞台についての話題を地形 から歴史文化にいたるジオパルク的視点 で紹介しします。	定員:20名 料金:無料	要予約 会場は大田市市民 センターを予定
 きっずサンデー	2/18 日 3/17 日	しまね家庭の日にあわせて、きっずプラ ネタリウムやデジタル紙しばいなど、キッ ズ向けイベントが満載の1日。	定員:なし 料金:入館料 ※小中高生無料	
 さわってみよう♪ わくわくワゴン	2/25 日 3/24 日	さわることができる標本を楽しいお話と ともに紹介します。	定員:なし 料金:入館料	
 月イチガク① 良港ゆのつは 火山の贈り物!?	3/9 土 14:00~15:30	石見銀山の港として栄えた温泉津はどう して良港だったのか。大地の歴史から見 た温泉津港の成立を紹介しします。	定員:20名 (オンライン:100名) 料金:入館料	要予約 オンライン参加 は無料
 星よりも、遠くへ	3/9 土 12:00~13:45	震災がテーマのプラネタリウム「星より も、遠くへ」と「まい&れいれい」のコン サート。	定員:100名 料金:無料	要予約 1か月前より 電話で受付

要予約 このマークがあるイベントは、1ヶ月前から実施する施設ごとに予約を受付します。



三瓶自然館:0854-86-0500



三瓶小豆原埋没林公園:0854-86-9500
(さんべ縄文の森ミュージアム)



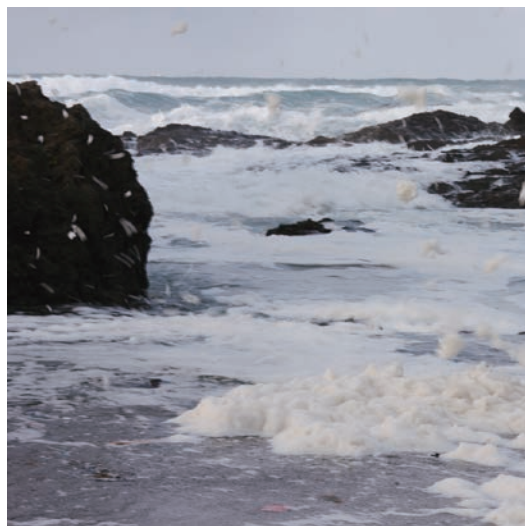
三瓶山北の原キャンプ場:0854-86-0152

※イベントが変更、中止の場合はHP等でお知らせします。

※毎週土曜日の天体観望会は予約制(ホームページから、その他はお電話で)で実施しています。

※4~11月の毎週土曜日の「北の原お散歩ツアー」、毎週土、日曜日と祝日の「天文ミニガイド」は、入館された方を対象に
予約不要で開催しています。

冬の風物詩 ~海辺に舞うホイップクリーム?~



強い北風が吹き付ける冬の日に、大田市五十猛町の国道9号線を
自動車で行くと、目の前を横切る白いものを目にすることがあります。
綿のように風に舞うそれは、「波の花」と呼ばれる海水の泡です。
荒波に繰り返し打ち付けられた海水が泡立ち、強風で吹き飛ばされ
たものです。

季節風が強い波をもたらすことと、冷えた海水はわずかに粘り気
が強く泡立ちやすくなることから、冬の日本海でよく見られます。
五十猛町は波の花が発生しやすい小さな入り江があり、すぐそば
を国道が通っています。波の花を目にしやすい条件がそろっている
のです。波の花が舞う様子は目をひく光景ですが、自動車にくっつく
やっかいな代物。塩分をたっぷり含んだ泡のため、乾くとボディと
ガラスは白いシミだらけ。金属部品がさびる前に水洗いが欠かせません。

島根県立三瓶自然館サヒメル

○開館時間/9:30~17:00

○休館日/毎週火曜日

(火曜日が祝日の場合は翌平日)

年末年始、その他、メンテナンス休館あり



三瓶フィールドミュージアムニュース <隔月発行>

編集・発行 公益財団法人しまね自然と環境財団

〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501

<エコサボしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 TEL 0852-67-3262

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。

エコサボしまね(松江事務所)では、地球温暖化対策等の事業を行っています。